

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春を待つ植物たち

川北紀子（千葉市）

日 時：2018年2月4日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：19名（大人 14名 子ども 5名）

担当指導員：岡田敬子 川北紀子

本日は立春、寒さの中にも春を少し感じられるような陽気でした。観察会の参加者も19名を迎える、にぎやかに観察会のスタートとなりました。まずは、用意しておいた樹木の冬芽のサンプルを皆さんで観察しました。形、付き方、大きさ、色、匂い、葉痕などそれぞれの違いを実感していただけたようです。角のような冬芽のホオノキ、毛皮を着ているようなコブシの冬芽、葉痕が顔のようなオニグルミやセンダン等々…触ったり、匂いを嗅いだりしていただきました。冬芽のひとつをナイフで切って中身をみてもらうと、男の子が「嫌いなブロックリーそっくり」と即座に答えてくれて、ニワトコとすぐに判明しました。樹木の冬芽の観察後は、冬の寒さに耐えながら土にへばり付いているロゼットも色々と観察しました。用意しておいたフキやセイタカアワダチソウの根のちかくには新しい芽が準備されている様子に、皆さん驚いていました。谷津田の方へ移動していくと、コナラのどんぐりがたくさん根を下ろしていました。オオイヌノフグリやタネツケバナの可愛らしい花もみられました。林縁ではムラサキシキブ、ニガキ、コバノガマズミ等々の冬芽を観察し、用意しておいたカードで草花のロゼットを再確認しました。本日観察した冬芽には、特徴を思い出しながらそれぞれにユニークな名前…ヒツジさん、サンタ、ケムシオヤジ、エボシ君、ナナミちゃん等々と皆さんに付けてもらいにぎやかな楽しい観察会となりました。最後にシュンランの花芽が付いている姿を観察。シュンランの脇にメガネの落し物があり、持ち帰りはダメと見張っているようだねと話し、大草には「持ち込まない・持ち出さない」の約束を確認して、本日の観察会を終了しました。

